



帰国生の学校選び A to Z

●第4回●

海外で身に付けた英語力を 維持するためには？

海外で身に付けた英語力を維持したいというのは、帰国生や保護者が帰国後に入学する学校に求めることの一つです。もちろん帰国時の英語力には個人差がありますが、多くの児童生徒が、帰国後に入学する学校の児童生徒より、はるかに高い英語力を持っているでしょう。今年度から小学校高学年で英語が必修化されましたし、多くの中学や高校ではネイティブスピーカーの先生による授業を取り入れたりもしています。しかし、それでも中学校や高校の英語の授業は文部科学省の学習指導要領に定められた内容で行われます。したがって、学校での英語の授業が簡単すぎるというような話はよく耳にします。

帰国生受け入れ校の中には、このような問題を解決するために、国際学級という帰国生みのクラスを設けたり、英語の授業のみ別クラスで行ったりしている学校もあります。また、放課後に英語の特別授業を行っている学校もあります。英語を重視するような入試を実施している学校では、このようはシステムを導入しているところが目立ちます。

一方、このようなシステムのない学校に入学した場合に英語力を維持するためには、語学学校のクラスを活用する方法があります。ただし、子ども向けのクラスは易しすぎる場合が多いので、大学生や社会人を対象としたクラスで学ぶか、個別指導を受講したり家庭教師を利用したりすることが必要になります。

いずれにしても帰国後は、現地校で学んでいたときに比べれば英語に触れる時間が極端に減りますし、日本語での学習がより重要になりますので、英語力の維持に関してはある程度妥協せざるを得ない場合もあるでしょう。



執筆者：丹羽 肇人

(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujeec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140